

第2節 市民活動コーディネーターと共助仕掛人の取り組み

(公益財団法人いきいき埼玉 埼玉県県民活動総合センター 「たまサポ」)
粉川一郎 (武蔵大学社会学部 教授)

【調査の概要】

調査日 2024年11月26日(火)

調査場所 たまサポ(彩の国市民活動サポートセンター)

調査先 公益財団法人いきいき埼玉理事長(たまサポセンター長)永沢 映氏

埼玉県県民活動総合センター 活動支援課長 松永久義氏

同

活動支援担当主査 畑田洋佑氏

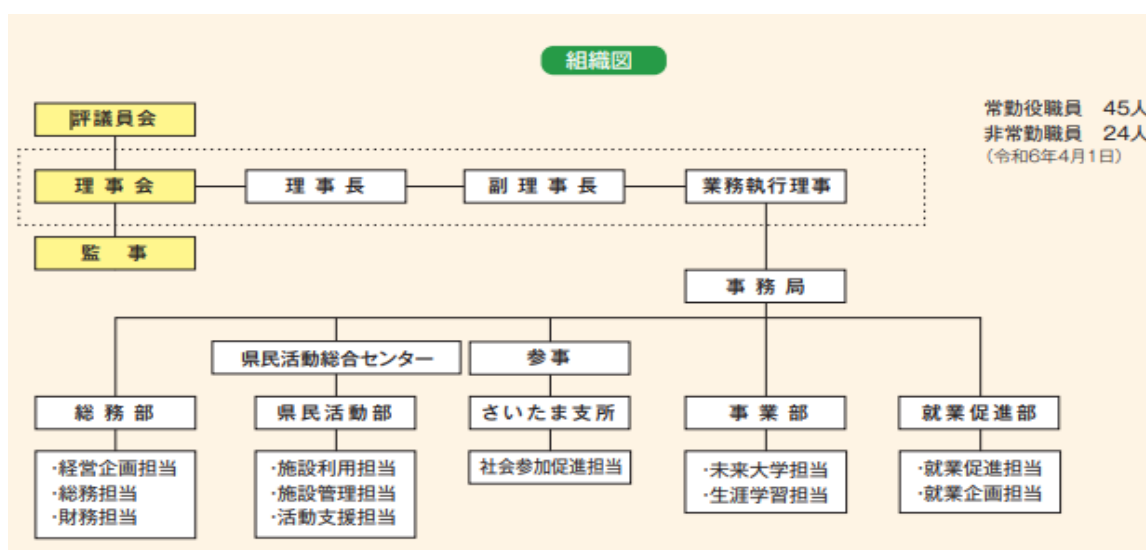
たまサポ 市民活動コーディネーター 藤井美登利氏

調査者 粉川一郎、深沢裕治(一般財団法人自治研修協会総務部長)

1. 「公益財団法人いきいき埼玉」の概要

公益財団法人いきいき埼玉は、NPO活動、ボランティア活動、生涯学習活動、その他広く県民等の諸活動の支援及び高齢者の生きがいづくりや地域参加を促進する事業及び高年齢者の就業機会の提供等に関する事業を行い、県民等が主体となった地域社会の形成を促進し、あらゆる世代が共に支え合う豊かな埼玉の発展に寄与することを目的とする。

2002(平成14)年4月に財団法人埼玉県県民活動総合センターと財団法人埼玉県高齢者生きがい振興財団が統合し、財団法人いきいき埼玉を設立。2005(平成17)年2月には埼玉県から埼玉県県民活動総合センターの指定管理者に指定され、2013(平成25)年4月には公益財団法人いきいき埼玉に移行した。



(出典：公益財団法人いきいき埼玉パンフレット)

事務所は、ニューシャトルで大宮駅から内宿駅まで約 27 分、さらに内宿駅から無料送迎バス利用で 5 分又は徒歩約 15 分、埼玉県北足立郡伊奈町に所在する。

たまサポ（彩の国市民活動サポートセンター）は、埼玉県が設置した市民活動を支える中間支援機関であり、埼玉県県民活動総合センターの施設内の一角にスペースを設け、県民等が気軽に利用できる市民活動の多角的なサービスの実施を目指し、財団の県民活動部活動支援担当が共助社会づくりの支援を行っている。



「愛称とロゴマーク」

埼玉県内の市民活動のサポーターでありたいという思いから、愛称を「たまサポ」とした。ロゴマークの色とりどりの丸は、皆様の活動を表し、支える「手」を葉になぞらえたもので、たまサポがさまざまな団体・活動をサポートする様子を表現している。

（たまサポ HP による）

たまサポが提供するサービスは、

（1）相談対応

NPO の設立、運営に関する各種相談、市民活動コーディネーター(※)によるアドバイスのほか、会計・税務相談については専門家による相談会も定期的で開催している（※市民活動コーディネーターとは、市民活動について専門的知識と豊富な経験を持ったスペシャリスト。NPO 法人の設立や運営方法など様々な相談に対応している。）

（2）相談窓口 （休館日、年末年始除く 9 時~18 時）

（3）市民活動を支援するための講座、イベントの開催

（4）市民活動に関する情報収集、ホームページや SNS、メールマガジンを活用した情報発信

（5）市民活動に関する場の提供や PC・プリンター等の機器の提供 などとなっている。



写真. たまサポ受付の様子



写真. 作業用スペース

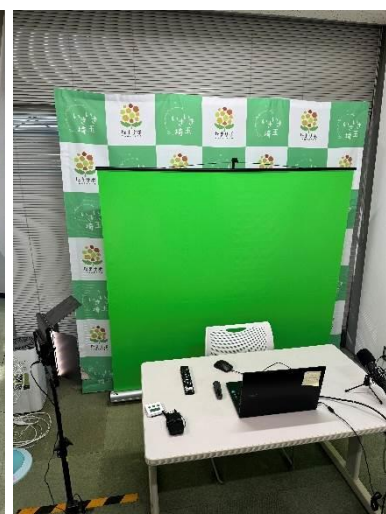


写真. 配信動画撮影ブースは珍しい



写真. 広々とした空間とキッズスペース



写真. 市民活動に欠かせないロッカー

2. 共助仕掛人

埼玉県では、様々なスキルやノウハウを持っている人材(専門家ボランティア)を集め、地域課題の解決や団体の運営力アップに取り組んでいる NPO や自治会、その他の団体などに紹介している。

「共助仕掛人」(きょうじょしかけにん)とは、NPO 等の相談を受けて最も適した人材や資金等をマッチングするコーディネーターである。

専門家ボランティアに登録されている者のうち、共助仕掛人として共助社会づくりに取り組む意欲のあるものを「専門家ボランティア共助仕掛人」と呼んでいる。

「サポート可能な団体の種類」としては、NPO・自治会・ボランティア団体・市民活動団体・商店街などであり、「サポートの内容」は、例えば、「経理、会計、PC」、「ICT リテラシー」、チラシ作成、web 広報」、「翻訳、通訳、英文

事務」、「企画、マーケティング」、「栄養管理、料理」、「建築、DIY」、「朗読、歌、楽器演奏」、「スポーツ」など幅広い。

なお、この件に関する相談窓口は、「埼玉県共助社会づくり課 活動支援担当」が担当している。

3. たまサポの市民活動コーディネーターが生まれてきた経緯

では、まずたまサポに市民活動コーディネーターが生まれてきた経緯について見てみよう。そのために、公益財団法人いきいき埼玉（以下、いきいき埼玉）の成り立ちをもう一度振り返ってみよう。

1. で述べたように、いきいき埼玉は2002（平成14）年に財団法人埼玉県県民活動総合センターと財団法人埼玉県高齢者生きがい振興財団が統合して生まれたものである。前者は埼玉県県民活動総合センターといういわば貸館事業を行ってきた財団であり、後者はその名の通り高齢者の支援、いわゆるシルバー人材センターの運営支援と高齢者向けの生涯学習の場を運営してきた。現在のいきいき埼玉の活動も3つの柱として「県民活動の促進・生涯学習の充実」「シニアの活動支援・地域参加促進」「シニアの就業支援」が挙げられている。たまサポの取り組みは、この中の「県民活動の促進・生涯学習の充実」に位置づいている。



図. いきいき埼玉3つの事業 出典：いきいき埼玉 Web サイト

このいきいき埼玉の理事長に 2019（令和元）年から就任したのが、今回お話を聞いた方の一人である永沢映氏である。永沢氏は日本のコミュニティビジネスシーンを引っ張ってきた第一人者であり、いきいき埼玉があえて永沢氏を招聘した意図としては、シニアの就業支援であり、シニアの起業につながるような教育プログラムの開発というものがあつたことは想像に難くない。しかしながら永沢氏はかねてから市民活動の分野でも顕著な実績を残してきた人物であり、市民活動の高齢化、人材不足の問題にもフォーカスをしてきた。その結果、永沢氏は高齢者の就労支援、そして高齢者向けのリスキングとしての埼玉未来大学のカリキュラムの開発を進めるとともに、停滞しつつある市民活動のテコ入れを図ることとなる。その流れの中で生まれてきたのが、たまサポの市民活動コーディネーターという存在である。

4. 市民活動コーディネーターの能力と役割

市民活動の強化を図る、と言っても容易なことではない。任意団体を含めれば 8000 はある埼玉県市民活動団体すべてにリーチしていくには、たまサポだけの取り組みでは間に合わない。永沢氏はかねてよりコミュニティビジネスや市民活動における中間支援組織（インターメディアリー）の存在の重要性を訴えてきていた。地域全体の市民活動の底上げを図るには、さまざまな助言、相談、支援を提供できる中間支援組織の存在が不可欠である。そこで、たまサポは、埼玉県内の中間支援組織のキャパシティビルディングを一つの大きな仕事として取り組むことになる。

しかしながら、どうやって中間支援組織のキャパシティビルディングを行っていけばよいであろうか。そのために必要となる人材としては、まず、市民活動の現場を良く知っている人材、そして市民活動特有の課題をプレイヤーとして認識できている人材、そして何より埼玉のことを良く知っている人材が重要である。そこでクローズアップされたのが、今回お話を伺った市民活動コーディネーターのお一人である藤井美登利氏である。

藤井氏は絹文化研究家、NPO 法人川越きもの散歩代表。「川越むかし工房」を主催し、埼玉県川越市の町雑誌『小江戸ものがたり』編集長をつとめている。川越というフィールドでプレイヤーとして市民活動を長く続けてきただけでなく、埼玉の市民活動団体との広いネットワークを持っている人材である。後述する埼玉県の共助仕掛人の一人でもあり、行政との連携経験も豊富な方である。

永沢氏は「ピンポイントで藤井氏にお願いした」と語っていることから、藤井氏が埼玉においてどのような位置づけの存在だったかを推し量ることができらるだろう。

もう一人、たまサポには市民活動コーディネーターには橘たか氏がいる。まち

づくりのアドバイザーとして顕著な実績を持ち、企業や団体の立ち上げ支援のほか、国土交通大学校では市民とのコミュニケーションに関する研修を行うなど、自治体職員の育成といった能力にたけた方でもある。橘氏の取り組みもコーディネーターとして興味深いものばかりであるが、本稿では特に埼玉とのつながりが深い藤井氏にフォーカスを当ててたまサポの市民活動コーディネーターについて論じていく。

さて、こうした人材を得て、たまサポは市民活動コーディネーターにどのような役割を持たせているのであろうか。たまサポ自身が、中間支援組織であることから、市民活動コーディネーターはNPOの設立、運営に関する各種相談を行うことになっている。しかしながら、たまサポの市民活動コーディネーターはそうした個別の相談を受けることがもっぱらの仕事ではない。前述したように、埼玉の中間支援組織のキャパシティビルディングが一つの大きな仕事である。そのためたまサポでは埼玉市民活動サポートセンターネットワークを運営、その事務局機能を担い、ネットワーク研修等も実施している。

● 埼玉市民活動サポートセンターネットワーク

埼玉県内の市民活動支援組織（県・市町村・大学のレポートセンター）のネットワークを形成し、情報、意見交換を行い、相互に連携しながら市民活動支援機能の向上に取り組み、共助社会づくりを推進することを目的とします。

たまサポ（彩の国市民活動サポートセンター）
さいたま市市民活動レポートセンター
熊谷市市民活動支援センター
川口市立かわぐち市民パートナーズステーション
行田市市民活動レポートセンター
所沢市市民活動支援センター
飯能市市民活動センター
加須市市民活動ステーション「くらくら館」
本庄市市民活動交流センター（はにほんプラザ）
春日部市市民活動センター
鴻巣市市民活動センター
上尾市市民活動支援センター
華加市市民活動センター
越谷市市民活動支援センター
わらびネットワークステーション
戸田市ボランティア・市民活動支援センター
入間市市民活動センター
朝霞市市民活動支援ステーション・シニア活動センター
和光市市民協働推進センター
北本市市民公益活動支援コーナー
桶川市市民活動レポートセンター
三郷市ボランティアコーナー瑞沼
蓮田市市民活動ひろば
鶴ヶ島市市民活動推進センター
吉川市市民活動レポートセンター
宮代町コミュニティセンター進修館 市民活動センター
川越市ワークショップ・情報コーナー（ウエスタ川越）
坂戸市市民活動交流コーナー
ふじみ野市立市民活動支援センター
八潮市市民活動支援コーナー
深谷市ボランティア・市民活動レポートセンター
聖学院大学ボランティア活動支援センター
文京学院大学地域連携センターBICS
立正大学ボランティア活動推進センター

図．サポセンネットワークには大学も名を連ねる

出典：たまサポ Web サイト

その取り組みの中でも特筆すべきものに「埼玉県版市民活動推進マニュアル」がある。(図)

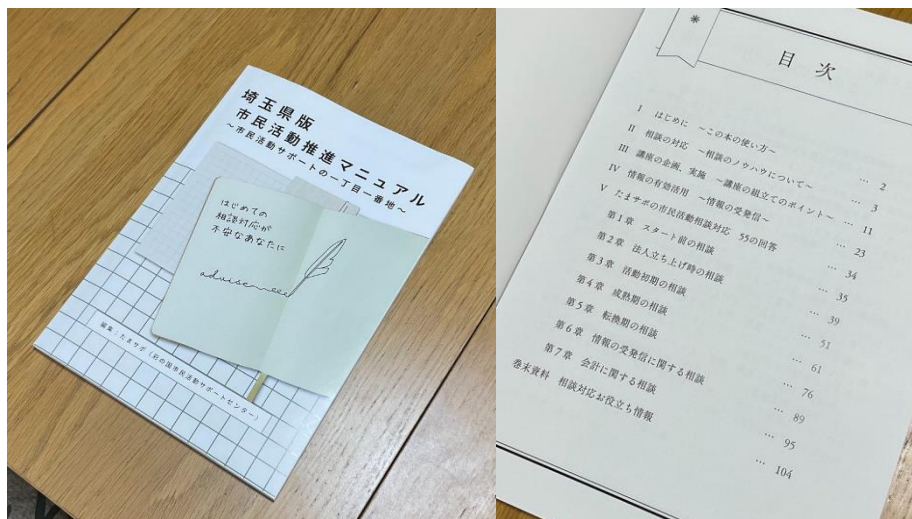


図. 市民活動推進マニュアルとその目次 (筆者撮影)

市民活動推進マニュアルは、名前だけを聞くと単なる市民活動のノウハウ本の様だが、実態は中間支援組織向けの相談対応のために作られたマニュアル本である。表紙には「はじめての相談対応が不安なあなたに」とあり、中身にはどのような相談が多くみられるか、その際にどのような回答をすればよいか、がまさにマニュアルとして網羅されている。また、目次からもわかるように、中間支援組織が行うサポートのなかでも、講座の企画や実施に関する情報の提供や、情報の受発信というテーマについても実践的な内容が含まれている。これらの内容は、市民活動コーディネーターが実際に受けてきた質問や相談といった経験をもとに作成されている。

地域の中間支援組織には、必ずしも市民活動の専門家が集まっているとは限らない。公設公営、公設民営、民設民営、さまざまな設置形態が中間支援組織にはあり、そこで働く人々の中には、(異動等で別の部署からやってきた)市民活動の知識が十分ではない人も含まれる。そうした中間支援組織の弱点にピンポイントで支援をしていくこのようなマニュアル作りを行っている点は、たまサポの市民活動コーディネーターならではの取り組みといえる。そして、こうした中間支援組織への支援は、マニュアル提供だけにはとどまらない。こうしたマニュアルを提供したうえで、個別の中間支援組織に足を運び、そこで行う企画の支援をまさに伴走型で実施している。こうしたツールとサービスの両面での支援を行うには、経験豊かな市民活動コーディネーターの存在が欠かせない。

もちろん、中間支援組織への支援だけではなく、たまサポ自身が提供する講座

(シニア共助担い手塾、市民活動スタートアップ講座等) やイベント (彩の国いきいきフェスティバル、NPO 法人交流会等) でも、市民活動コーディネーターが活躍している。まさに支援者でもありプレイヤーでもあり、そうした役割をたまサポの市民活動コーディネーターは果たしているのである。



図. 市民活動コーディネーターの活動は動画でも配信
 出典：たまサポ YouTube チャンネル

5. 共助仕掛人との関係

このように充実した活動を行っている市民活動コーディネーターであるが、埼玉にこうした人材が生まれてきた背景にはどのような環境があったのであろうか。それを明らかにするためには、埼玉県の取り組みである「共助仕掛人」事業に触れる必要があるだろう。

前述したように「共助仕掛人」とは、NPO 等の相談を受けて最も適した人材や資金等をマッチングするコーディネーターである。埼玉県の実業であり、県内で市民活動をコーディネートできる人材がどこにいて、どのようなテーマで活

動しているかが一覧できるものである。流れとしては、2014（平成26）年に共助仕掛人制度をスタート。共助社会づくり課、和光市、熊谷市、川口市に共助仕掛人を県予算で配置。（※なお、3市での県予算での配置については平成28年度まで。県での配置は令和2年度まで。）2018（平成30）年に共助仕掛人について全県を対象とした制度へ変更すべく検討を開始、2019（平成31）年には共助仕掛人制度を「登録」制度に変更、2024（令和6）年12月現在、全県で約30人弱の共助仕掛人が登録されている。

こうした仕組みは他の自治体等でも見られるものではあるが、埼玉県のユニークな点では、この取り組みが行政職員と先述した藤井氏とのやり取りから生まれたという点だ。まさに事業企画の段階から、市民と行政が話し合いながら進められてきたものなのである。

地域に散らばっているコーディネーター的な役割を担える市民を発掘し、その存在を広く知らしめていく。と同時に、共助仕掛人としてその立場を行政がある種保証することで、地域におけるコーディネーターの活動しやすさ、を作り上げていく。さらには、地域の現場のことを良く知るコーディネーターを県がネットワーク化することで、そうした人々からの知見を県が学ぶことができる、ある種のシンクタンクのような機能を持たせることも意図されていた。

この取り組みで2018（平成30）年に地域に散らばるコーディネーターを共助仕掛人としてリクルートしていったのが藤井さんなのである。藤井さんは、自ら共助仕掛人の一人目として登録されていたが、人選にあたっては埼玉の各地の市民活動団体を訪ね歩いたという。新聞の地域欄やミニコミ誌といった媒体に目を通し、面白そうな活動をしている人がいればそこに足を運んで会いに行く、あるいは地域で行われるさまざまなイベントの場に足を運び、共助仕掛人の名刺を持って挨拶に行く。最初から共助仕掛人を発掘してやろうという姿勢で臨むのではなく、できるだけたくさんの人々と会い、話を聞き、そうしたお付き合いの中で、この人は地域の中でコーディネーターとして活躍できそうだ、という感覚で人材を発見していったという。その結果が、埼玉各地に広がる30人近い共助仕掛人という結果である。

今、たまサポにおいて藤井さんのような市民活動コーディネーターが活躍できるようになっているベースには、この埼玉県の共助仕掛人の取り組みがあったことは間違いないだろう。人と人とをつなぐことに投資することの重要性を感じ取らせてくれる事業である。

6. コーディネーターの活躍とそれを支える組織基盤

ここまで述べてきたように、たまサポの市民活動コーディネーターの取り組みは、一朝一夕で生まれてきたものではない。藤井さん自身は、市民活動のプレ

イヤーであり、なおかつ市民活動に高い見識を持つ専門性のある人物であるといえる。しかしながら、藤井さんが行政とかかわりを持つことなく単独で活動していたとすれば、その活躍の範囲が限定されたものにとどまったかもしれない。

藤井さんの言によれば、共助仕掛人のネットワークを広げていくために地域に出てさまざまな人と会う際には、「共助仕掛人」という埼玉県の名前が入った名刺がとても役に立ったという。コーディネーターは、やはり人と人とをつなぐ存在。それだけに実際に会い、話し、分かりあうことが大切であるが、現代は必ずしも初対面の人に胸襟を開いてくれる時代とはいえない。少なくとも日本社会では、単にコーディネーターとして活動している人よりは、行政と一緒にコーディネーターとして活動している、という人の方が信頼を得やすい。ファーストコンタクトを成功させるという意味でも、行政の取り組みがこうした地域のコーディネート事業に係ることは非常に重要であることが理解できる。

また、いろいろな現場に出かけていくための交通費等が県の事業ということでも担保されているということも重要な要素のひとつであったとも藤井さんは言っていた。ただでさえ忙しい市民活動を行う人々が、時間を割き、交通費を割き、いろいろな地域に行ってイベントに参加したり、注目すべき人と会う、というのも意外とハードルが高いものである。オンラインでのコミュニケーションが頻繁になった昨今ではあるが、やはり実際に足を運んで人と会う、という行為には特別なものがある。特に、地域におけるコーディネーターという存在にとって、現場に足を運ぶことの重要性は言うまでもない。ここにも、行政が関与することの意味があるといえる。

ここまでのたまサポの市民活動コーディネーターの誕生までの経緯と現在の活動、そしてそれを産んだ背景について見てきた。その成功の裏にはやはり、行政の組織的な関与があったと言って良いであろう。良き人材を集め、その人々に活躍する環境を整備するうえで、行政やその外郭団体の果たせる役割は大きい。県域での取り組みではあるが、基礎自治体レベルでも参考にできる良い事例といえるだろう。

参考資料一覧

『公益財団法人いきいき埼玉パンフレット』

いきいき埼玉 Web サイト

(2025年1月19日取得 <https://www.iki-iki-saitama.jp/>)

たまサポ Web サイト

(2025年1月19日取得 <https://www.iki-iki-saitama.jp/kenkatsu/saisapo/>)

たまサポ YouTube チャンネル

(2025年1月19日取得 https://www.youtube.com/channel/UCzPgF-q2_WvSc4PuXx5cfw)